

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



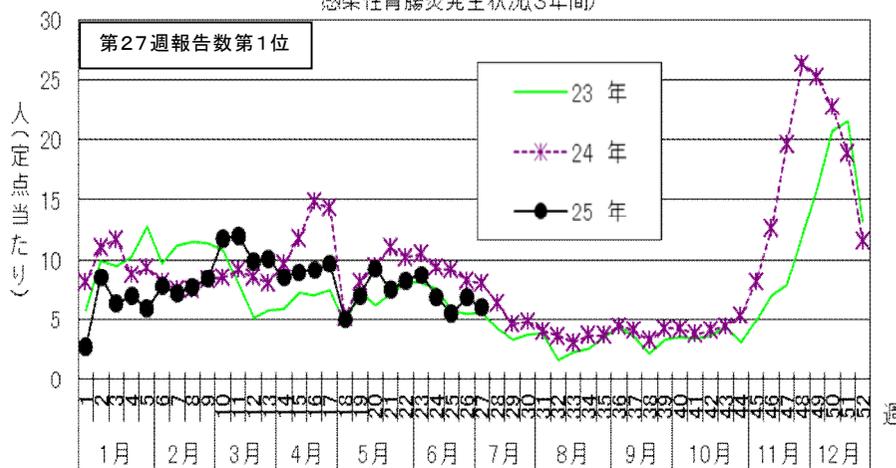
KAWASAKI CITY



平成25年7月1日（月）～7月7日（日）〔平成25年第27週〕の感染症発生状況

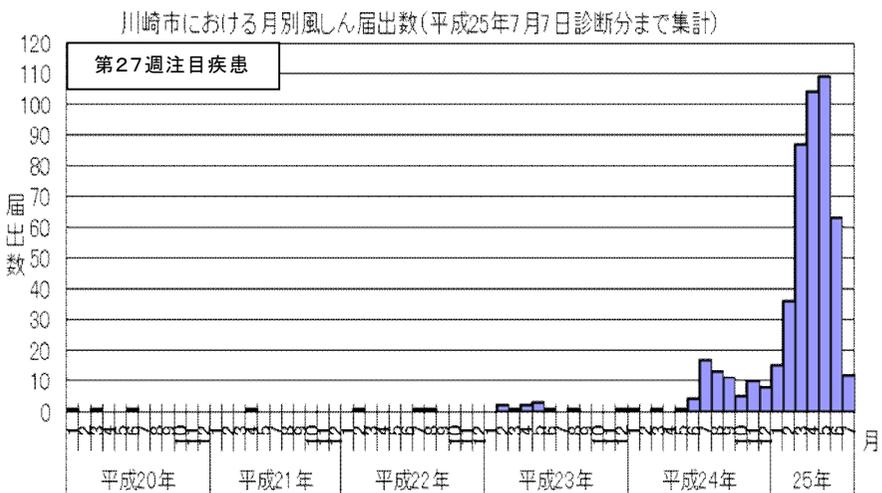
第27週で定点当たり報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)手足口病 3)ヘルパンギーナ でした。
 感染性胃腸炎は定点当たり5.97人と前週（6.82）より患者報告数は減少し、例年よりやや低いレベルで推移しています。
 手足口病は定点当たり4.52人と前週（3.15）より患者報告数は増加し、例年より高いレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナは定点当たり2.12人と前週（2.00）より患者報告数はやや増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。
 腸管出血性大腸菌感染症の発生届が3件ありました。全国的に患者数が増加していますので、今後の発生動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



特に夏期は要注意！～腸管出血性大腸菌感染症～

6月以降、全国的に腸管出血性大腸菌感染症（O157など）の届出数が急増しており（右下グラフ参照）、川崎市においても第27週に3件の届出がありました。
 腸管出血性大腸菌は感染力が強く、数十個～100個程度の少量の菌でも発症することがあります。また、酸に強く、胃酸の中でも生き残ってしまうため、感染予防に注意が必要です。対策としては、日頃から手洗いを徹底し、肉を中まで十分に加熱するだけでなく、野菜などもしっかり洗うことが大切です。



感染しないための3原則



腸管出血性大腸菌感染症は、例年、7月中旬から9月中旬にかけて患者が増加します。そのため、今後患者数がさらに増加することが推測されます。